

# 週報 第3269回

会長 渡辺 万寿 副会長 瀧谷 達  
幹事 根尾 玲子 SAA 中田 広宣

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津  
TEL 0725-20-1121  
例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F  
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501  
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org  
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



## 今週の例会(2024年11月29日) 第3269回

### ■ プログラム

卓話担当 川上 正人 会員  
卓話 八木 秀富 会員  
「泉大津市就学児前施設再編計画と  
条南幼稚園民営化」

### ■ 次週のプログラム

12月6日 : 総会

### ■ 今後の予定

- ・12月13日: クラブフォーラム  
山本 博章 職業奉仕部門担当理事

### ■ 祝 誕生日

深井 喜一(3日)

### ■ 今月のロータリーソング

我等の生業

### 今月の歌

#### もみじ

秋の夕日に 照る山もみじ  
こいもうすいも 数ある中に  
松をいろどる 楓や蔦は  
山のふもとの 裾模様

### ■ 先週の例会



会長の時間 渡辺 万寿 会長

ロータリー財団の始まり  
一人のロータリアンの夢が現実に



アーチ・克蘭フがロータリーの基金について語った、  
1917年のアトランタ国際大会に出席した人々

**幹事報告**

根尾 玲子 幹事

- 上半期の会費納入期限が、来週11月29日(金)となっておりますので、まだの方はよろしくお願ひ致します。
- 12月21日(土)開催のクリスマス家族例会の出欠の報告期限は11月28日(木)となっておりますので、よろしくお願ひ致します。
- 和泉ロータリークラブ例会変更のお知らせ  
12月18日(水)は同日午後6時から、上期最終例会  
12月25日(水)・令和7年1月1日(水)は休会

**委員会報告**

- クリスマス家族例会ですが、昨日時点であと15名位がまだ出欠のご連絡をいただいております。来週11月28日(木)までに出欠のご返事いただきますようによろしくお願ひ致します。  
(細川 嘉則 親睦活動委員長)
- 本日例会終了後、みやびの間にて、委員会を行いますので、ご案内のあった方ご出席のほどよろしくお願ひ致します。(櫻井 善章 社会奉仕委員長)
- 本日例会終了後、3階のティーラウンジで、委員会を開催致しますので、関係者の方よろしくお願ひ致します。(山本 博章 職業奉仕委員長)

**■ ビジター**

なし

**■ 出席報告** 会員数44名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
11/22	35名	9名	—	79.55%
11/1	38名	6名	1名	88.64%

**■ メークアップ**

榎本(11/6 ワールド大阪ロータリーEクラブ)

**■ ニコニコ箱**

- ・本日 金丸様、お忙しい所お越し頂きありがとうございます。川端先生、宜しくお願ひ致します(渡辺)
- ・金丸様、ようこそお越し下さいました。有難うございました。川端会員、本日の卓話を宜しくお願ひします  
(根尾)
- ・金丸様、お越し頂きありがとうございます。川端様、本日卓話よろしくお願ひいたします(中田)
- ・本日卓話 川端会員様、宜しくお願ひ致します(松内)
- ・地区大会ゴルフ、ありがとうございます(西田)
- ・欠席おわび(森口)
- ・欠席のお詫び(櫻井)
- ・例会欠席のおわび(小野寺)
- ・早退のお詫び(丹農)

ニコニコ箱合計	21,000円
累計	369,000円

## 先週のプログラム



### 卓話担当 川端 徹 会員 書籍「だんじり認知症サポーターの軌跡」 ～よもやま話

本日は、7月31日に出版した書籍「だんじり認知症サポーターの軌跡」についてよもやま話をさせていただきます。

泉大津ロータリークラブの多くの皆様に私の書籍をご購入いただき、本当にありがとうございました。2014年から始めた、だんじり祭関係者で認知症サポーターを拡げる活動支援が10年経ちましたので、何か記録に残しておきたいと思い、将来的にはその書籍を出版したいと考えて自分なりに以前から書き溜めていました。

2年前に、医院の私のパソコンに幻冬舎メディアコンサルティング(MC)の方から突然、メールが届きました。「本を出版しませんか?」と言った内容でした。だんじり認知症サポーターの輪の活動をFacebook等のSNSに上げていたため、幻冬舎の担当者の目に止まり連絡されたようです。初めは詐欺メールと思い、全く無視しておりましたが、繰り返しメールが来ること、また元々、本も書きたいと思っていたためリモートで話だけでも聴こうと思いました。聴いているうちに、書籍を利用してだんじり認知症サポーターをさらに拡げようという考えに至りました。また、全国の祭文化に認知症サポーターの支援活動を拡げたいと期待が膨らみました。幻冬舎MCは企業出版を提案され、出版費用は医療法人の必要経費(税制対策)として、また分割支払いも可能であり、当院の税理士に相談してもOKとのことでした。1年半前よりリモートを使って、幻冬舎担当者や編集担当者、ライターとのインタビューが始まりました。なかなかライターが決まらず、今年(2024年)1月からようやく章立てからスタートしました。リモートで私が話した内容をライターが文章に書き起こしてくれるため、日々の診療等で忙しい中でも執筆が可能と考えていました。

ただ実際はライターの文章が、私ならこんな言い方はしないな、等々、気に入らない文章が多くを占めるので、結局、私の書き溜めていた文章をほとんどそのままブロックごとに入れ替えてもらいました。幻冬舎の担当者は書籍発刊のプロ集団ですが、私は今回初めての著者となるため、半分ド素人です。ただ医師となって多くの論文も書いていましたので、自分なりに執筆力はある程度あるのではと自負しているところもありました。幻冬舎は型にはめた章立てや文章を勧めます。私も主張したいところや想いがあり、幻冬舎編集担当者との意地の張り合いも結構ありました。よく、「弊社といたしましては。。。」と口癖のように言われました。

意地の張り合いは書籍のタイトル名、表紙や帯のデザインにも至りました。幻冬舎の提示したタイトル名は「認知症バリアフリーの街」でした。私は認知症の医療や介護に携わる方々にとってはこのタイトルでは当たり前すぎて書店で眼にも止まらないだろうと言いました。私の提示したタイトルは「だんじり認知症サポーターの輪のキセキ」でした。副タイトルに～認知症バリアフリーの街～と添えました。最終的には「輪」が取れ、キセキは漢字の方が表紙前面に座り安定するとのことで、『だんじり認知症サポーターの軌跡』となりました。

出版総部数は4,000部で、幻冬舎MCの全国主要書店との提携・展開力とAmazonでの購入(300,000円付キャンペーン)も可能で書籍販売数は10月15日現在、518部です。増刷され10,000冊を超えると1冊当たり5%の印税が入る仕組みです。

一方、各書店での有償展開や週間ランキング獲得の商業ベースもあり、旭屋書店なんばCYTY店、ジュンク堂書店近鉄あべのハルカス店で有償展開(90,000円)を行い、紀伊国屋書店のグランフロント大阪店とアリオ鳳店でそれぞれ100冊書籍を自ら購入し、週間ランキング1位を獲得の上、書店で商業展開をいたしました。購入した書籍は私の医院のかかりつけ患者様やだんじり認知



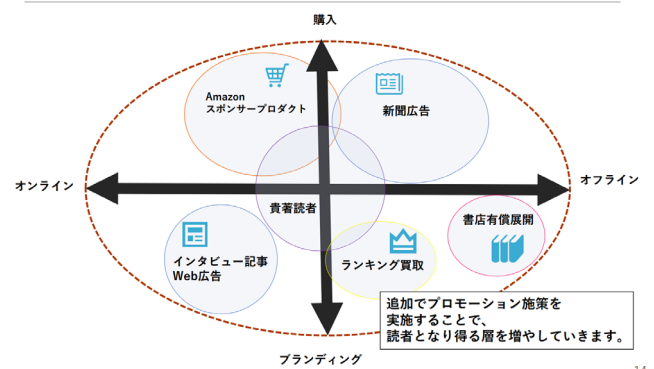


症サポーター含むだんじり祭関係者、また医療、介護、福祉の多職種専門職の希望者に販売いたしました。書籍を発売して初めて出版業界のことが判り勉強になりました。

書籍の内容について、「はじめに」は私の書いていたものに、まるとご換えてもらいました。P4、6行目からの下りは、当初は、「この認知症サポーターを、あっ!と驚く方法で広めてている地域、団体があります」。その名も、「だんじり認知症サポーター」。であり私は第三者としての立場で紹介したかったのですが、幻冬舎は、「はじめに」の文章内には著者の紹介を入れてもらいますと、言われました。結局、私がこの活動を始めて広めた文の内容に修正されました。

この書籍の執筆を進めて、大詰めに差し掛かった2024年5月8日に、厚労省は65歳以上の高齢者がピークを迎える2040年に認知症患者が584万人、認知症予備軍とされる軽度認知障害(MCI)患者が613万人に上るとの推計結果を公表しました。2025年に700万人に上る推計結果が2015年から言われ続けて、認知症を取り巻く地域での支援体制の構築が叫ばれ、認知症サポーターの増員もその目的の一つでしたが、今回の推計結果で15年後に200万人減少に転じていることになれば、この書籍の主意が根底から覆るようで、変更も余儀なくされピンチでしたが、「はじめに」P5、11行～P6、5行(および第5章本文中。)に文章を付け加えたことで、旨く乗り切れ、逆に文章がさらに締まった感を持っております。

幻冬舎や関係者等から、だんじり認知症サポーターの輪の活動が地域や泉州地域に何をもたらしたか?、何か提示できる数値データはありませんか?と聞かれます。第5章の最終章をどのように展開し、まとめるか、思考しながら執筆をつづけていました。幻冬舎の提示した文章の内容とは全く違った内容になりましたが、軌跡が奇跡となる想いを伝えることができました。だんじり祭文化は300年前から連続と続き、世代を越えて次世代へ、未来に続いて行きます。認知症サポーターとしての意志もだんじり祭が伝わると共に、未来に無限大に拡大して行きます。こうした数値で提示することが困難な地域社会にもたらした大きな可能性、世代



を越えて伝えて行く計りしれないポテンシャル、こういった見えない結果こそが、最大かつ無限大の数値であり結果なのかも知れません。「だんじり祭」と「認知症対策」。一見全く関係のないこの二つの言葉をつなげてみると、これは地域社会での新たなイノベーションとなり、地域創生の大きな原動力となっています。

最後に、Amazonで、この書籍の内容についての確にまとめて、有難い評価をしていただいている「いかくん」の顧客レビューをご紹介します。幻冬舎MCの関係者の「桜かな?」と当初、思っていましたが、泉大津市でクリニックを開業されている先生(女性)が自ら「あれ、私です!」告げていただきました。一気に読んで大変感銘したのでそのままの勢いでレビューを書いてくれたそうです。

(いかくん)

『アツい思いを、涼やかに、自然体で地域に溶け込ませる、著者の活動の軌跡です。』

原動力となるお人柄と、実行される力に大変感銘を受けました。

一見、なぜ?と思わせる、「だんじり」と「認知症サポーター」。どうしてこの二つが結び付いてwin-winなのか。本書にはその種明しが描かれます。読み終えた時には、「だんじりといえば、オレンジリングでしょ!」と思ってしまうかも?

地域に根差した新たな取り組みを考えている方。

既存の組織・体制の殻を破りたい方。

地域の活動をさらに発展させたい方。

本書にちりばめられた著者の心構えや手法は、地域の様々な問題の解決の一助になるかもしれない、たくさんの示唆が含まれています。皆様の、地域プロジェクトを成長させる、何らかの糧を得られる一冊だと思えます。

アツいけどアツくない、誰も不幸にならない自然体の活動。この奇跡のような軌跡を、爽快な読後感とともに噛み締めました。著者と本書に関わる全ての方の、ますますのご活躍とお幸せを祈ります。』